

# W-BRIDGE

## '11 年度活動報告



W-BRIDGE

Waseda-Bridgestone Initiative for Development  
of Global Environment



# Message

## 地球環境保全のための「架け橋」を目指して

早稲田大学と株式会社ブリヂストンが連携して進める「W-BRIDGE」は、環境問題という人類共通の課題に対し、産学連携に加え、環境 NGO や市民団体といった一般の生活者の方々にも参画いただき、三者一体で研究・活動を行える枠組みを提供するプロジェクトです。企業と大学の連携に、地域の生活者との連携をプラスして、二つの架け橋、つまりダブルブリッジに基づいた実践的な研究・活動を支援していくことを目的としています。

2008年7月のスタート以来、のべ55件のプロジェクトを支援してきました。研究者と市民そして学生の間には架け橋をわたして、ともに地球環境を守るための研究・活動を進めています。

世界的な業績を上げた研究者や著名な NPO 活動者から、それぞれの地域で生活と環境を守っているみなさん、未来への希望に満ちた学生まで一緒に手を携えて行動をしています。ちょっと照れくさいですが、地球とみんなの「しあわせ」を目指して。

W-BRIDGE (Waseda-Bridgestone Initiative for Development of Global Environment) は早稲田大学環境総合研究センター内に設置された産学連携プロジェクトです。

以下に示す株式会社ブリヂストンが定めた4つの領域で募集を行い、早稲田大学および早稲田大学提携校等に所属する研究者と民間団体などの連名で応募いただき、審査委員会および運営委員会の審査を経た案件に対し、早稲田大学環境総合研究センターから研究・活動を委託しております。

1. 企業や生活者がともに自然と共生していく方法を考える
2. 資源を大切に使い循環させる仕組みを、生活者とともに考える
3. 2050年の視点からCO<sub>2</sub>を減らす方法を、生活者とともに考える
4. 環境保全の知見や手法を世界にひろげ、次世代と共に学ぶ方法を考える

※2011年7月から新領域が設定されました。2011年6月までの4領域については、5-19ページをご覧ください。

また、研究・活動を支え、情報を発信する活動も併せて行っています。

2011年11月1日現在、のべ55件のプロジェクトが採択されており、(うち17件はすでに目標を達成して終了) 対象地域もインドネシアから早稲田の町内会まで、特に今年は東日本大震災の被災地に直接関係するプロジェクトも4件あります。研究代表者も早稲田大学、東京工業大学、九州大学、岩手大学、茨城大学など、民間団体も海外のNPOから、商工会、地域団体、ジャーナリスト団体など多様な広がりを見せています。

本レポートの内容は、W-BRIDGE プロジェクトの第三期の活動の概要を表したものです。詳細は、Web サイト ([www.w-bridge.jp](http://www.w-bridge.jp)) をご覧いただくか、W-BRIDGE 事務局 (連絡先は裏表紙に記載) までお問い合わせください。





写真 上：(岩井プロジェクト)  
現地小学校での環境教育

下：(秋吉プロジェクト)  
実習地の子どもと休憩中





## ご挨拶

代 表 堀口健治

W-BRIDGE (Waseda-Bridgestone Initiative for Development of Global Environment の略) は、地球環境の保全に貢献するために、早稲田大学と株式会社ブリヂストンの連携で、早稲田大学環境総合研究センター内に設置された産学連携プロジェクトで、地球環境分野において、従来の産と学の連携に、地域の生活者との連携を加えた二つの架け橋、つまりダブルブリッジに基づいた実践的な研究・活動を支援し、その成果を広く発信していきます。

早稲田大学は、環境分野においては、理工学系と人文社会科学系が協働して問題に取り組むことが重要であるとの認識から、学問領域統合型のアプローチを旨とする環境総合研究センターを設置して活発な研究展開を行うとともに、大学院環境・エネルギー研究科を設置して、時代の課題に応えた大学院教育を展開して参りました。

株式会社ブリヂストンは、環境宣言に掲げる“未来のすべての子どもたちが「安心」して暮らしていくために…”という変わらぬ思いのもと、かねてから経営の最重要課題の一つとして環境経営活動を積極的に実践して参りました。すなわち、生産活動における環境負荷軽減をはじめとし、環境対応商品の開発・販売やリトレッド事業の展開など、広範囲な事業領域だけでなく、地域的な広がりもふまえた多様性のある活動を展開して参りました。



写真 左：(島谷プロジェクト)  
加茂湖再生プロジェクトの看板  
中：(加藤プロジェクト)  
菜の花プロジェクトの畑の看板  
右：(森川プロジェクト)  
南カリマンタンの植林予定地の看板

そして双方は、日々深刻化する地球環境問題解決の道筋を明らかにするという、企業および大学の社会的使命を果たしていくためには、従来の企業と大学の連携の枠を超えた、人々の生活により近づいた取り組みが必要だと考え、2008年7月に当プロジェクトをスタートさせました。

地球環境問題は、人類、ひいては全ての生物に関わる問題であり、その解決のための研究は、地域に生活する人々による実践的なものでなければなりません。本プロジェクト設立の意図は、生活者としての一般の人々に参加して頂けるような枠組みを作るということです。本当に持続可能な社会を実現していくには、人間の生活というものを無視して進めることはできません。地域で実生活に根ざした活動をされているNPOやNGO、そして一般の方々を、産学の連携に巻き込み、一緒に課題解決に取り組んでいく、そういう三者連携の新しい枠組みで、地球規模の問題解決に貢献していきたい。また、得られた成果は広く世の中に発信し、多くの方々に活用していただけるようにしていきたいと、当プロジェクトは考えます。

皆様におかれましては、当プロジェクトの趣旨をご理解いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

